

協議会ニュース

32号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

1991.3



乳白色



ビワ (バラ科)

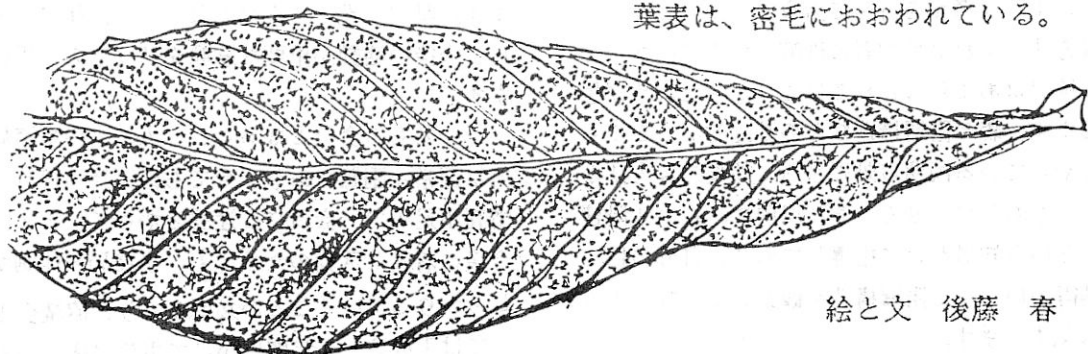
1988.2.29 家の庭でスケッチ。

描いている時、甘い香りがした。

12月～1月の頃の間、メジロが花の所に来ていた。

2月3日、雪の為枝が折れた。さくいのだ。

葉表は、密毛におおわれている。



絵と文 後藤 春

毎年、5月～6月頃実が熟す。

冬の間に花をすぐっておかないと、なりすぎて実が小さい。

今までの10年 これからの10年

佐藤国彦（運営委員長）

昨年は、多くの会員の協力により協議会の10周年記念行事を終えることができました。この機会に、協議会の今までの10年とか今後の活動の方向を考えてみました。

協議会が設立されたばかりの頃は、自然観察会という言葉もあまり馴染みがなく、多くの指導員は、観察会では指導員講習会で学んだことを夢中でやってみるだけでした。それでも、観察会の参加者は、私達の乏しい知識を真面目に聞いてくれたようです。熱心さだけで進めてきた観察会も、回を重ね経験が深まれば、自然の成り立ちや大切さを分り易く伝えることができるようになるはずですが、実際はどうでしょうか。私の場合では、以前は「良い観察指導をするには、3回は下見が必要」と考えそれを実践してきましたが、今ではぶっつけ本番でも何とかごまかせるようになりました。しかし指導している内容は、昔覚えた知識や方法からあまり出てはいないようです。観察会で訴えたいことも焦点がぼけてきた感じがします。

この10年間に、観察会の指導内容も、各支部の担当者の努力でいろいろな試みがなされ、水生生物やベイトトラップなど新しい分野も加わってきました。しかし、一つひとつのテーマを、どのような考えを持って指導するか、どのような方法によれば参加者に理解されやすいかなどの検討はあまりなされてはこなかったように思えます。森の階層構造などの基礎的なことでも、今やっている説明以外にさらに効果的な方法があるかもしれません。それ以前に、森は4階建てという知識だけで指導しており、自分の目で納得のいくまで階層構造を観察していないような気がします。

自然観察会は、楽しいものでなければなりませんし、指導者と参加者が和やかに笑いながら半日を過ごすような雰囲気は大切でしょう。し

かし、それは必要条件であっても、十分条件にはならないように思えます。私達の会が、「自然観察指導員」の会であるならば、観察指導の内容とか方法についてもっと研究・検討する必要があるように思えます。また、自然観察指導の裏付けとなる自然の見方・考え方もお互いに研鑽する必要があると思われます。

協議会の初期の段階では、タンポポなど身近な調査に取り組んだり、自然保護等の研究会を開いたり、機関誌の編集もそれなりに考えたものとしてきました。いずれも事務局の能力不足等であまり成果はまともありませんでしたが、これからも常に新しい活動を手掛けていく姿勢は大切にしたいものです。

私達の会は、自然を愛するものの集まりですが、自分で自然を楽しむだけでなく、自然の楽しさ・大切さをより多くの人に伝えるとともに、自然を守る気持ちを社会的に育てていくことを目的としています。そのために行うべき活動は、まだまだ幾つもあると思います。会員にとっては、自分の仕事の合間をぬっての活動ですから、会としても一度に多くの事業はできないでしょうが、今後はゆっくりでも着実に一つひとつの事業を積み重ねていく会でありたいと思っています。県内で唯一の全県的な自然の団体でもあります。今後の活動が重要な意味を持つものと思います。

300名もの会員となると、一人二人の事務局では運営が困難であり、今でも機関誌の遅れや情報不足等で、会員にご迷惑をかけています。今後の着実な活動のためにも、事務局の体制がしっかりしていることが必要であり、協議会としては平成3～4年度にかけて事務局体制の充実を図っていくこととしました。

今の計画では、平成4年度から、事務局に運営・普及・調査・編集の4つの部会を設け、部

会ごとに複数の人で事業を実施していく予定です。平成3年度は、その試行期間として、運営委員会を4つの担当に分けて事務を進めることとしました。幸い、山田博一（普及）、北岡明

彦（調査）、神戸 敦（編集）、の各氏の協力を得ましたので、今年度はこれらの人を中心に協議会を運営していくこととしますので、皆様方の協力をお願いします。

〔シリーズ〕私のフィールド ①

——定光寺——

山田果与乃

立春も過ぎ、暖かい陽ざしの午後、久しぶりに定光寺へフィールドウォッチングに出かけてみました。

定光寺駅から城嶺橋（しろがねし）を経て、そのまま真直ぐに突き進むと、すぐ御手洗川（みでらがわ）の川沿いに出ます。ここからは、右に不揃いの急な石段を下り古ぼけた橋を渡りきると、樹林のトンネルコースとも言うべき自然歩道に出るのですが、去年まであったその橋がいつのまにか取り壊され、跡形もないのです。少し離れた下流に工事中らしきコンクリートの板が向こう岸にのびているのが見え、橋のたもと近くの鬱蒼と繁っていたアラカシの大木、低木などがすっかり取り払われ、広がった視野に枯木の様なコナラの大木が見事な樹形をとどめています。見え隠れする自然歩道を右手に見ながら、ガラガラ坂の車道をゆっくり登っていくと、見通しのよくなった川べり近くには、シラカシと思われる株立ちの大木が苔むしたままの樹幹を



さらし、独特の枝ぶりを見せています。去年は、その対岸近くでオオルリの巣を発見。おしくらまんじゅうの様に3羽が互いに押し合いながら息を吸いこむたびに、巣全体がパンパンにふくらんだり、いびつになったりで思わず手をさしのべたくなる衝動をぐっとこらえたことがよみがえってきます。更に上流に目を移すと、自然歩道を覆う様にモコモコと盛り上がったシイ、重なり合って上空へのび上がったカシ類、その中に枝先がかすんだ様に見える落葉樹が点在して心地よいたたずまいを見せています。

しばらく歩くと、川べりにおい茂るのびすぎた枯草のかけからジジッとアオジの声。その上には鉄製の急な下り階段が下りて、ベニヤ板でしつらえた仮橋につながっています。トントントンと鈍い足音を響かせながら、ザーと流れ落ちる溪流沿いの自然歩道に行きつきます。ほの暗さの中、森の精気が満ち、目がなれるにしたがって、サンショウソウ、キジノオシダ、実を落としてしまったツルアリドオシと、地味な野草が続き、ツクバネガシ、アラカシなどのドングリも僅かばかり目につきます。



尚も目を凝らしながら進むと、テイカカズラが種子に羽毛のプロペラをつけたまま舞いおりているのに気がつきます。黄色い花びらが手をのびし始めた春一番のマンサクも木の間にぐれに確認。丸い少しかたそうに見える蕾をのせているのはシキミでしょう。時折、工事の金属音が鳴り響く中ですが、ルリビタキ、ジョウビタキなどが好きなポイントで飛び交っています。シダ類も秋には胡麻粒ほどの前葉体が二葉に変わって、やわらかな黄緑色が光っています。

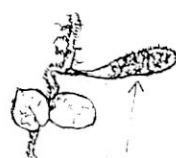
まだまだ探せばいくらでも新しい発見があり
 そうなこのミニフィールドも、平たんな道のり
 になる頃には、前方が急に広がって清水の正伝



アウカシの新芽 2/9
 (アウカシ)
 (まだかいた芽は白く見える)



テイカカズラの種子
 (キョウケクシラ科)



マメツタの胞子
 (ミヅナ科)

サニシヨウリウ 2/9

池が目前に現れます。脇目もふらずに歩けばた
 った15分のコースですが、四季を通じてなかな
 かすがたい私の好きなフィールドの1つです。
 時間が許せばこの池でカワセミの観察をするの
 も一興でしょう。

——ちょっとひねった自然観察 I——

春の蝶をじっくり観察してみよう

尾張支部

北岡明彦

皆さんが一番最初に春を感じるものは何でし
 ょう。樹々の冬芽のほころび、庭のオオイヌノ
 フグリ、雑木林のマンサクなどいろいろありま
 すが、虫屋にとって「本当に春が来たな！」と
 感ずるのは、早春の雑木林の林縁で、コツバメ
 (シジミチョウ科)に初めて出会った時です。
 その他にも、ツマキチョウ・ミヤマセセリ・ギ
 フチョウなどが春の蝶の代表格です。

彼女達に山路で出会った時、つい手を出した
 くなりますが、そこをじっと我慢して、じっ
 くり観察してみませんか。

＜その1＞ 蝶たちの保護色

チョウ達の翅の裏側の色調・模様は、各々の
 種類の生活場所にそっくりです。

- ・コツバメとミヤマセセリ(林縁性)は焦茶色
- ・ツマキチョウ(草地性)は緑色の網目模様

＜その2＞ コツバメの傾き静止

コツバメが日当りで静止する時には、太陽光
 線と直角になるよう翅を傾けることがあります。
 そんな時、翅の裏面の焦茶色も効果的です。

＜その3＞ 蝶たちの縄張り

コツバメやミヤマセセリは比較的縄張りがは
 っきりしており、他の個体が侵入すると激しく
 追尾するのが観察できます。

その他にも、
 防寒用の毛の
 存在など、彼
 女達には自然
 の不思議がい
 っぱいありま
 す。

皆さん、知
 ってました？



森の忍蝶 コツバメ

観 察 会 報 告

身近な川で

——金色島自然観察会——

東三河支部 間瀬美子

10月21日、本年度最後の観察会は、青空に白雲の流れる好天に恵まれた。

開会の挨拶に引き続き、早速、金色島の森に集まる野鳥を観察する。望遠鏡の視野にモズやヒヨドリが入り、かわるがわるのぞき込む、と、突然背後で轟音。競輪の開催を知らせる花火が上がったのだ。思いがけないほどの数の鳥が一斉に飛び立った。

「わあ、あんなにいたんだ。」に一同爆笑。

次は、吉田大橋から豊川と金色島の全体像をとらえる。汐の入るこのあたりは、今、引き潮の真最中のようなだった。

金色島の水辺では、今日もシジミを採る人たちの姿があり、小さい参加者たちも砂を掘り返してシジミ探しに熱中していた。

試薬を使っの簡単な水質検査には興味が集まった。豊川本流の水と、持参した汚れのひどい梅田川支流の水との違いから、水への関心も深まったようだった。



豊川の流は、吉田城の建つ段丘の下で直角に曲がり、「お城下」の淵と「金色島」の浜とを作っている。金色島にはタブノキ、エノキ、ムクノキなどの大木がこんもりと茂り、夏は涼しく冬は暖かいせいか、「コジキ」連の溜り場になったそう。コジキ島から「金色島」という通称が生まれたという、市街地の近くでは珍しく自然の残っている場所である。

しかし、一方ではこの屈曲部分が川の水はけ

を悪くし、水害を起こす恐れがあるということから、金色島の出っ張りをけずり取る計画が進められ、現に工事も始められている。行政では、親水ゾーンを作る考えのようだが、人工的な河辺でなく、自然のままの木や土を生かした水辺は考えられないものかと思う。参加者からも、これほどの自然をこわしてしまうのは惜しいという声が聞かれた。

観察コース検討、資料作り、当日の指導など、会員それぞれが精力的に活動し、参加者にも充実感を持ってもらえる会であったと思う。昔の面影はないが辛うじて清流？を保っている豊川の水が、これ以上悪化しないことを念じつつ会を閉じた。



対岸から見た金色島＝豊橋市今橋町で

資料(1991.1.26 朝日)

自然の宝庫
豊川・金色島

河川の治水工事でピンチ

市民の間には
保護訴える声

豊橋市下地町の豊川右岸河川敷の通称「金色島」(こんじきしま)が、河川改修工事のため、存続が危ぶまれている。吉田城跡の対岸にあり、樹木が茂り、自然愛好家や釣り客らに親しまれてきた。治水のため、川幅が狭い箇所を広げる工事だが、一部市民の間には「都に残された自然の宝庫を何とか残してほしい」と、保護を訴える声が強い。

自然だより



早春の花マンサク情報

石川 静雄

2月3日(節分)の午後、静岡県境の赤石山系雨生山麓の林道沿いで、早春の花マンサクが咲きはじめていた。この林道沿いには、小高木のマンサクが多数自生しているが、咲きはじめてのは1株だけで、他はまだまだほころぶ様子はみられない。この分だと、おそらく満開は2月中・下旬といったところか。数年前の昭和62年2月14日に、この地を訪れたときは、満開の見ごろであったが、例年通りか、若干遅れぎみか。

この地方では、マンサクの群生地は、戦後まもなくのころは各所でみられたようだが、今日では人工林の増加と成木化にともなって減少の一途をたどってきた。稀少価値が高くなったマンサクのこの群生地を、是非後世に残すよう提言してまいりたい。

春一番花だより

瀬戸市 日比野 修

瀬戸市では、北部から東部へと連なる山々の麓林(杉林)内の林床に、緑のふとんを敷き詰めたように群生する、コセリバオウレンを見ることができます。

2月11日は雨上がりの暖かな一日でした。例年ですと、そろそろ定光寺の宮菫下では、コセリバオウレンの花が咲く頃ですが、今年は1月中旬から寒い日が続いたので、どうかな咲いたかな、まだかな、と思いながら出掛けてみました。

夏は美しい緑の葉も、今は霜焼けで褐色を帯び汚れた葉の下から、5~6cmに伸びた茎の先に、白い小さな花を3~4輪咲かせていました。パッチリと星型に開いた五弁の花は、コンペート(金米糖)をちりばめたように、あちらにも、こちらにも咲いています。花の盛りは例年と変わりなく今月下旬のようです。

ものみ山情報(瀬戸市海上町)

北岡由美子

2月5日、もうマンサクがまず咲いていました。ダンコウバイの花芽もぶくぶくにふくらんで、黄色い色がうっすら見え、クロモジの玉のような花芽や赤いつやつやの葉芽もふくらみ、もう春はそこまでというところです。ネジキやスノキの芽も赤くのび、アベマキやコナラの芽ものびてきて、これからが楽しい季節となりそうです。

宮田用水取水口付近 1991.1.25

後藤 春

一宮駅東からAM8.53発犬山行きバスに乗る。丹羽、浅井山公園をとおり、小塞神社から河田で堤にあがり、宮田本郷を経て2つ目のバス停(雑木林に近い)小杣(このり)で下車する。そのまま東小杣まで歩き、左手の用水路横の道におりる。昨夜の雨で少しひんやり感ずる。目の前に近づく木の冬芽を3、4種戴き、踵を返す。アベマキ、アラカシの多いやぶでウグイスのささ鳴き、枝先のシジュウカラがサット真下に落ちた。

開けた畑地で剪定された桑畑が美しい。アベマキの疎林の間に桜の並木がしばらく続き、途切れたあたりで、巾の狭い小網橋(おもいやり橋)は川島へ通じていて、握り拳大の石が河原を埋め水は涸れていた。

用水の脇道へ戻ると、ク、ク、クとツグミ、畑で少しずつ動くのはヒバリ?

製材所が2ヶ所、川島神社、鹿子島(かこじま)、生島(いしま)等の地名が多く、小さな祠を合わせると、神様を祭ってあるところは10ヶ所ほどあると思われます。その昔、木曾川の大洪水の有様に思いを馳せ、対岸の川島をのぞみながら歩を進めると、もう宮田。

用水取口近くでヤドリギをむく、むくと付けているムクの大木、バス停で一宮行きを待つ2、3分の間、流れのよどみで一瞬……水面を叩き……去った。カワセミでした。

ヒヨドリとスズメ

岩田不二子

わが家の庭に住みついているヒヨドリ夫婦は、今年も、通りすがりのヒヨドリの群に、大事なクロガネモチの実をすっかり食べられ、この頃では、餌を求めて遠出しているようです。

流れ者達に襲われた時、夫婦はパニック状態で、2、3日、バタバタ、ピーピー大騒ぎしていたのですが、多勢に無勢、たわわな赤い実は、一粒残さず食べつくされてしまいました。クロガネモチは5本もあるのに、同族同士で酷いことをするものです。しかし、殺し合いまでしない所は、人間より高等な生き物だと思います。

私の妹は、大の生き物好きで、ヒヨドリ夫婦を餌付けしました。これは名古屋都心での話です。雄は、働き者の子育て熱心なワンマン亭主で、雌は、いつもいじめられオドオド小さくな

っています。文字通り、三枝の礼をとり、食事亭主が食べてから。鳥の世界に男尊女卑があるとは知りませんでした。餌が豊富なので、1年に3回位抱卵します。餌は、果物はもとより、パン、魚、青虫、ジュース、氷水から牛乳まで、なんでもござれです。

パンを千切って放り投げると、塀や屋根から飛んで来て空中でキャッチ、すぐに元の場所へ、という見事な業を見せてくれます。百発百中、目にも止まらぬ早業です。

ところが、いつもこれを見ていた一羽のスズメが、この早業に魅せられて、真似をするようになったのです。残念ながら、いくらやっても成功しません。パン屑は空しく地面にポトリ。これを愚かというべきか？身の程知らずと嗤うべきか？はたまた進化の過程と見るべきか？

なんとも健気で哀れな夢見るスズメです。

支部だより

<尾張支部>

1月31日(日)午後1時から午後5時まで犬山市の岩田洗心館で総会が開かれました。参加者はやや少なく13名でしたが、アットホームな雰囲気がかつてない程、話がはずみ、意外と真剣な討論になりました。

今年度役員は以下のように決定しました。

支部長 鈴木成和 顧問 吉田義人
会計 松尾 初 通信員 北岡明彦

<名古屋支部>

本年度の役員は次のとおりです。

支部代表 浅井聡司
運営委員 福西寿広 会計 増田 弘

<知多支部>

本年度の役員は次のとおりです。

支部長 加藤寿芽 庶務 降幡光宏

<西三河支部>

今年度の役員は以下のとおりです。

支部長 山原勇雄
副支部長 宮本敬之助、岡田 速、三津井宏
幹事 安井貞夫、水鳥富人(運営委員)
会計 浅野真理

<奥三河支部>

1月6日午前10時より桜淵公園内の割烹「加藤」で総会が開かれました。昨年度の事業報告、今年度の事業計画を審議し、閉会後は懇親会を開きました。

今年度の役員は以下のとおりです。

代表 石川静雄 副代表 熊谷尚久
幹事兼会計 杉山茂

<東三支部>

1月13日(日)、豊橋西武にて総会を開きました。今年度は東三支部発足10周年ということで、10周年記念行事関係議題を中心に2時間あまり討議しました。その結果「自然とは何か」をテーマに葦毛湿原とその周辺において①ミニ観察会②トークショー③野外コンサート④10周年記念誌の発行等を行うことになりました。計画が具体化した折は協議会ニュースでお知らせしたいと思います。

今年度の役員は次のように決まりました。

会長 武田孝夫 副会長 中島芳彦
会計 山本公美子 事務局長 鈴木友之
監事 丸山嵩

観察会の御案内

(3月～5月)

- ①主催 ②集合場所・時間 ③照会先
- ④観察会のねらい ⑤参加資格・費用
- ⑥備考

3月10日(日) 小牧市大山自然環境保全地域 観察会(月例観察会)

- ①尾張支部 ②名鉄野口大山バス停 9:00
- ③松尾初 ☎0568(32)5069
- ④里山に残るシイ林の自然
- ⑤一般・無料

3月17日(日) AM9～12 飯盛山自然観察会

- ①西三河の自然を知る会(西三河支部)
- ②足助町飯盛山登山口
- ③水鳥富人 ☎0564(55)1802
- ④早春の草花 ⑤一般公募・無料
- ⑥あればルーペ、双眼鏡を持参

3月21日(木) 猪高緑地自然観察会

- ①名古屋支部 ②名古屋市名東区社教センタ
ー ③朱雀英八郎 ☎052(911)5087
- ④春の観察 ⑤一般公募・無料

3月31日(日) 渥美の自然を守れ「現地交流 会」

- ①中部の環境を考える会 ②渥美町青年の家
- ③大羽康利 ☎053145-2607 参加希望の人は必ず連絡をとってください。
- ④シデコブシの自生地も観察 ⑤一般公募
- ⑥豊橋駅前からバスも出ます。(有料)

4月14日(日) 瀬戸市物見山(月例観察会)

- ①尾張支部 ②愛知環状鉄道山口駅前 9:00
- ③北岡由美子 ☎0561(84)2953
- ④身近な森の働きについて考えてみよう
- ⑤一般・無料

4月28日(日) 御津町臨海緑地観察会

- ①東三支部 ②臨海緑地西駐車場 9:45
- ③岩崎員郎 ☎0532(61)1254
- ④海岸の生物と森のできかたの観察
- ⑤一般公募・無料

5月12日(日) 犬山市善師野観察会

- ①尾張支部(犬山市委託)
- ②名鉄広見線善師駅前 9:00
- ③大竹勝 ☎0568(61)3659 ④初夏を彩る動植物の観察 ⑤犬山市へ申し込み 無料
- ⑥指導員の参加大歓迎

5月12日(日) 東海市自然観察会

- ①東海市 ②東海市大池公園 AM9:30～13:30
- ④春の野草と樹木を散歩しながら見よう
- ⑤一般公募・無料
- ⑥4月11日(日)と5月6日(日)は下見と春の野草観察

研修会の御案内

- ①主催 ②場所・時間 ③照会先
- ④会のねらい ⑤参加資格・費用
- ⑥備考

3月17日(日) 会員研修会

- ①東三支部 ③高橋康夫 ☎0532(62)2204
- ④東三河の淹めぐり

4月12日(金) 室内研修会

- ①知多地方自然観察研究会
- ②阿久比町中央公民館 PM6:30～9:00
- ④花と昆虫のくらし ⑤無料

5月10日(金) 室内研修会

- ①知多地方自然観察研究会
- ②阿久比町中央公民館
- ④野草の利用 ⑤会費 200円

5月19日(日) 野外研修

- ①知多地方自然観察研究会
- ②常滑市鬼崎公民館 9:00
- ④海岸植物と海岸地形 ⑤無料

編集後記

あわただしい中、やっと編集を終えました。
ただただ皆様方のご協力に感謝するばかりです。
編集者として非力ではありますが、2カ月に1回、奇数月定期発行でいきたいと思います。次回は5月1日発行予定です。会員の皆様のご協力をお願いいたします。(神戸 敦)

